

School Library

No. 6

さいたま市立桜木中学校

平成 28 年 10 月 25 日



10月27日(木)～11月9日(金)までは「読書週間」です。今年の標語は「いざ、読書。」。

標語の作者の増井俊資さんは「本を選ぶのは楽しくもあり、むずかしくもあります。好きな作家・ジャンルあるいは装丁など、なんども目移りしながらようやく選んだ一冊は、はたして自分を震えさせてくれるのか。それは読んでみないとわかりません。満を持しての1ページ。いざ、読書。」と語っています。

桜木中の図書館にも目移りするほど、たくさんの本があります。「読書週間特別貸出し」を利用して、まずは1ページ目から、読書を始めてみてください。

読書週間特別貸出し

特別貸出し実施期間：10月27日(木)～11月11日(金)

貸出し冊数：1人3冊

貸出し期限：1週間



10月31日(月)は合唱祭のため、休館します。(※司書も不在です)

11月7日(月)は3年生実力テストの採点会場になるため、休館します。(※司書も不在です)

先生方のオススメ本紹介

図書委員会では9月に、桜木中の先生から中学生におすすめしたい本のアンケートをとりました。「先生のオススメ本紹介」として、図書館では紹介文の展示や特設コーナーの設置を予定しています。

そこでスクールライブラリーでも、先生方のオススメ本と紹介文を掲載したいと思います。先生が中学生のみなさんに読んでほしい本です。ぜひ読んでみてください。

校長先生

『100万回生きたねこ』 佐野洋子/講談社

何回読んでも、考えさせられます。本の扉を開くだけで、別の世界に行けます。色々な旅に出ましょう。



*裏面へつづきます。

教頭先生

『こなもん屋うま子』 田中啓文/実業之日本社

その店は、大阪のどこかの町にあります。不思議な看板と昭和レトロな店構え。その古ぼけた引き戸を開けると、そこには「大阪のおばはん」を絵に描いたような女主人・蘇我家馬子が「デンっ」と座っています。物語はオムニバス形式で構成されています。仕事に、人生に、さまざまな悩みを抱える人びとは、彼女がつくる、たこ焼き、お好み焼き、うどん、ピザ、焼きそば、豚まんなどの「こなもん料理」を口にした途端…その味の虜になり、毎日通い詰めることとなります。しかし、ある時を境に、その店にたどり着くことができなくなってしまいます。店の建物も、店が存在したという人々の記憶さえも忽然と消え去り、主人公は二度と馬子のつくる絶品こなもんを食べることができなくなってしまうのです。神出鬼没の店「馬子屋」を舞台に繰り広げられる、爆笑につぐ爆笑、そして感動と満腹のグルメミステリーを、秋の夜長にどうぞお楽しみください。

教務主任の先生

『潮鳴り』 葉室麟/祥伝社

主人公は、周りの人たちの支えを受けて、誰かのために生き直そうとすることに気付かされていく…。大変読みやすいので、読んでみたらどうでしょう。

A先生

『ぼくたちのリアル』 戸森しるこ/講談社

講談社児童文学新人賞受賞の本です。3人の男の子の物語。とても読みやすかったです。実は、作者は私の教え子です。

I T先生

『夢をかなえるゾウ』 水野敬也/飛鳥新社

インドの神様ガネーシャと主人公が夢を叶えるためにギャグを交えながら奮闘する物語。ガネーシャと主人公のかけ合いがとてもおもしろくまた大切なことを教えてくれる本です。ぜひ読んで下さい。

T Z先生

『綾瀬はるか「戦争」を聞くII』 TBS テレビ『NEWS23』取材班/岩波書店

今年オバマ大統領が広島を訪れました。その時間はおよそ50分間。これが実現するために71年間というとても長い時間がかかりました。あの日、広島で起きたことは何ですか？奇跡的に生き残った方々が重い口を開いた事実など、戦争体験者が年々減る中で伝わってくる貴重な言葉となっています。日本人として目をそむけてはならないことが詰まっている1冊だと思います。

S先生

『モモ』 ミヒャエル・エンデ/岩波書店

モモという女の子と人の時間を盗む男たちとの戦いがあります。“忙しい”とあわただしく生きている中で“のんびりすること”“ゆとりをもつこと”の大切さを感じます。

T H先生

『青空のむこう』 アレックス・シアラー/求竜堂

主人公アーサーが死後の世界で出会い主人公の死んだ後の家族や友人のその後を知るために現世に行く物語。生きている時は見えないことを知って初めて気付く感動のストーリー。

*次号へつづきます。

